



～ 2012施設公開&園芸・科学教室を開催しました ～

4月21日(土)に「亜熱帯農業センター施設公開&園芸・科学教室」を開催しました。施設公開は、東京都科学技術週間のイベントとして実施しており、試験研究成果等のパネル展示や園芸・科学教室、ヒヨコとのふれ合い、スタンプラリー、農業機械展示、丸太切り、農家有志による野菜・果樹苗の販売等を行いました。

今年も天候に恵まれ、350名以上の方々に足を運んでいただきました。試験研究成果報告については、当センターの成果展示に加え、水産センターや小笠原総合事務所植物防疫担当のコーナーを設け、充実した展示となりました。

園芸教室「パッションフルーツ挿木体験」「自宅でサラダを作ろう」はあっという間に定員となり、科学教室「島レモンってどんなレモン?」「小笠原のカタツムリ～なぜ減ったのか～」も多くの方にご参加いただきました。



写真1 園芸教室「自宅でサラダをつくろう」

試験・研究圃場を中心に実施したスタンプラリー、外来種を切る丸太切り、ヒヨコとのふれ合いコーナー、運転席に座れる農業機械展示は子供たちに大人気でした。大人に人気だったのは、昆虫の標本や農家の皆様やJAの協力による野菜苗・果樹苗の販売コーナーでした。今年は生産者によって作成された「レモングラスティー」も販売され、賑わいを見せていました。



写真2 パッションフルーツのクイズ。正解は?

今年も多くの方にご参加いただき、農業センターが住民の方々にとって、少しでも身近になれたのではと感じています。最後になりますが、ご来場いただいた皆様、ご協力いただいた関係機関の皆様に、職員一同、深く感謝と御礼申し上げます。〈渋谷〉

農業者セミナーのお知らせ

意欲ある農業者を対象とした農業者セミナーを8月以降に開催します。詳細は、別途お知らせいたします。〈網野〉

～ 平成23年度の研究成果概要 ～

23年度に発表した農業センター、営農研修所、畜産指導所の研究成果概要を紹介します。

1. 施設栽培ゴレンシの剪定時期が収穫時期に与える影響

春休みの観光需用に応じ、収穫時期を長期化させるための剪定時期を検討しました。剪定を5月に行うと収穫期は12～2月でしたが、剪定を7月に変更すると収穫盛期が2～3月となりました。露地栽培との組み合わせで10月から3月まで出荷が可能です。(宗)

2. ジャボチカバの生育・果実・収穫特性

ジャボチカバ大葉系品種の施設栽培では結実開始から4年連続で収量が増加し、2010年は最大で11.51kg/樹となりました。収穫盛期は春季および秋季ですが、



写真3 ジャボチカバ (結実の様子)

収穫回数は7～9回/年で1年を通して出荷でき、小笠原村の特産農産物として有望です。(宗)

3. パッションフルーツ

①輸送中の振動と緩衝材の振動緩和効果

父島から立川市内への輸送中の振動は海上よりも陸上輸送時に大きいことがわかりました。振動緩和効果が最も高い緩衝材の素材と設置場所は、「厚さ15mmのウレタンを出荷箱の底面に敷設」です。

②「サマークイーン、ルビースター、台農1号」3品種の特性

施設栽培では、「サマークイーン」の開花数および着果率は最も低く、個体差も大きいです。収量および推定粗収益は「台農1号」

が高いですが、「サマークイーン」は果重以上の割合が多いです。糖酸比は収穫直後で「台農1号」最も高いですが、その後25℃で貯蔵すると2日目以降で「サマークイーン」が高くなります。(宗)

4. アテモヤの剪定による収穫期の拡大

アテモヤは新梢に花芽がつき結実します。通常の3月期剪定後と夏期の再剪定の併用により、収穫期を11月から翌4月まで調整可能です。また、収穫果率は8月再剪定で最も高く、11月以降の収穫は裂果の発生がなくなることから、再剪定により裂果の多い収穫期を避けることも可能です。(馬場)

5. 「菊池レモン」の果実品質調査

小笠原村特産の「菊池レモン」の果実品質を調査し、都内で一般に販売されている他産地産レモンと比較しました。

10月に収穫した「菊池レモン」は、1果重が大きく、果皮が薄く、果汁の割合が高く、種子の数が多い特徴がありました。また、果皮の色は他産地のグリーンレモンよりも青みの強い緑色でした。(窪田)

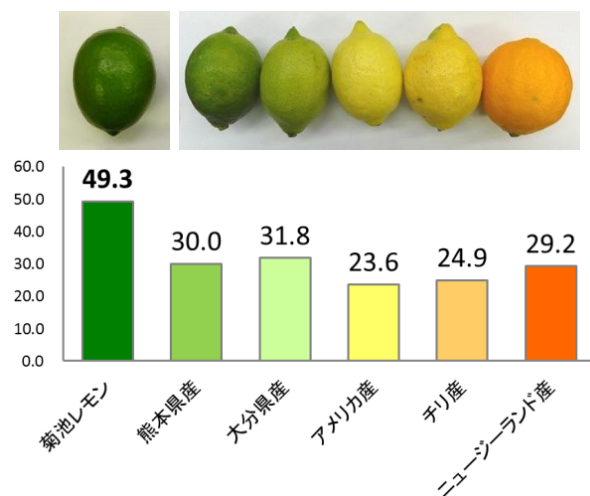


図1 レモン6種類の外観と果汁歩合(%)

6. バニラの開花・結実と挿し木用土

小笠原においてバニラを試作した結果、挿し木 3 年目から開花がみられました。開花盛期は 5 月下旬から 6 月上旬でした。結実には開花当日の人工受粉が必要で、収穫期は 11 月下旬から 12 月上旬となりました。

また、挿し木の用土としては、赤色土に堆肥とパーライトを混合した用土が適しており、赤色土やバーミキュライトの単用よりも新梢の生長量が大きくなりました。（窪田）

7. モクマオウ林に移植した植物の生存率

植生回復を目的に固有植物 10 種および広分布植物 4 種をモクマオウ林に移植しました。移植後 1 年経過し、冬季および夏季移植のどちらかの生存率が 70% 以上の種は固有種 7 種および広分布植物 3 種でした。（宗）

8. 病虫害防除試験の取組み

① 燐酸第二鉄のアフリカマイマイ適用拡大試験
JAS 適合農薬である燐酸第二鉄（スラゴ）のアフリカマイマイに対する適用拡大のための効果試験をカボチャ苗を用いて試験しました。その結果、本剤は 2008 年度に実施した試験と同様、速効的な致死効果は低いが、高い食害防止効果があることが示されました。現在、メーカーが適用拡大申請をしており、近く使用可能になる見通しです。

② キクイムシ類によるアテモヤ被害の発生
父島においてアテモヤの幹および枝を加害するキクイムシ類が発生しました。これらはサクキクイムシおよびルイスザイノキクイムシと判明しました。被害は誘引や強剪定により樹勢

が低下した樹でみられました。主幹の被害は低部位で多い傾向がありました。また、発生消長を 7 月からトラップで調査したところ、サクキクイムシが主であり、8 月中旬と 11 月中旬に発生のピークが見られました。（大林）



写真4 アテモヤより採集されたキクイムシ類
左：サクキクイムシ 右：ルイスザイノキクイムシ
（スケール（—）は 1mm）

9. 育苗に適した市販用土（パッションフルーツ）

生産者が使用している市販用土 3 種（タキイ種苗の「育苗培土」、サカタのタネの「スパ-ミック A」、タキイ種苗の「アサヒ豊作物語」）の育苗適性を評価しました。「育苗培土」は対照の赤色土よりつる長および葉色がよく、育苗用土に適しています。（宗、佐藤）

10. モクマオウチップの堆肥化

小笠原において外来種として伐採しているモクマオウの堆肥化について検討しました。牛糞と生ごみ 1 次処理物との混合では 2 ヶ月程度で発酵温度が 40℃ まで低下し、鶏糞と硫安との混合では 2 週間で発酵が終了しますが、大型チップ片は未分解で、そのまま圃場に施用することは困難です。（舩屋）

詳細は以下のホームページをご覧ください。

検索 小笠原支庁 → 小笠原亜熱帯農業センター → 試験研究成果概要

< 網野 >

土壌診断のお知らせ

農家を対象に畑の土を分析し診断します。よく乾かし細かくした土（できれば 5mm 以下のふるいを通し）大きな手のひら一握りくらいを紙の袋や封筒に入れて下さい。袋には依頼者名・畑の場所・前作と後作を明記してください。父島は農業センター、母島は営農研修所までに **6 月末日** までに提出して下さい。サンプルの採り方や、疑問な点は農業センターまたは営農研修所の職員にお尋ねください。

～ 着任職員の紹介 ～

ふじもと しゅういち
藤本 周一 営農研修所長



このたび南多摩農業改良普及センターから転勤してまいりました。前回（平成7～10年度）の赴任から14年ぶりの小笠原です。澄んだ空と海は変わりませんが、世界遺産ブームと観光客の増加には多少とまどっています。しかし、時と場所を超え、熱意ある農業者の支援は大歓迎です。恵まれた自然条件を活かした魅力ある農業と農業経営者の育成と一緒にトライしていきましょう。

よしだ としゆき
吉田 俊幸 畜産指導所長



4月に舩屋係長と交代しました吉田俊幸です。昭和50年から平成22年まで37年間、都の普及事業一筋に勤め、今一度島しょの産業振興のお手伝いしたいと昨年1年早く退職し、八丈島に、そして今年はさらに南の小笠原母島に。地元の皆様と一緒に汗をかき、小笠原の産業振興にお役に立ちたいと思います。よろしくお願ひします。

あみの のりこ
網野 範子 研究員



馬場研究員の後任で参りました網野範子です。パッションフルーツ、アテモヤを中心とした熱帯果樹類の研究を担当します。亜熱帯の植物に携わるのは初めてで毎日が新鮮です。

世界自然遺産登録で活気あふれるこの時期に赴任いたしましたので、少しでも小笠原農業と地域の振興に貢献できるよう、精一杯努力してまいります。よろしくお願ひします。

農業センターの研究・実証展示分担が決まりました。所長の**渋谷**は全体の総括、**大林**は病害虫主担当で他に野菜類、**網野**は果樹主担当でパッションフルーツ、アテモヤ、ホワイトサポテと当ニュースの編集、**宗**は小笠原固有植物主担当で他にオガサワラオオコウモリ・ジャボチカバ・コーヒー、**窪田**は実証展示主担当で他にレモン、レイシ、ゴレンシ、新規導入植物の担当となりました。ご質問、ご要望は各担当者によりしくお願ひ致します。

平成23年4月1日付けで営農研修所長の**佐藤澄仁**は東京都農林総合研究センター（立川市）へ、畜産指導所長の**舩屋浩二**は島しょ農林水産センター（港区）へ、研究員の**馬場隆**は東京都農林総合研究センター江戸川分場（江戸川区）へ、異動となりました。

.....長い間お世話になりました。.....

農業センターニュースは小笠原亜熱帯農業センターのホームページにも掲載しております。



検索

小笠原支庁 → 小笠原亜熱帯農業センター → 農業センターニュース